

# Culib News (クリブニュース)

No.51

2007年1月10日 中京大学図書館発行

ことばの散歩－14－

## “右”と“左”の不思議 -2-

図書館長 安村 仁志

前号の「左」に続き、今回は「右」についてヨーロッパの言語・文化から考えてまいります。

その前に「左」にまつわる英語の話題をひとついたします。「左腕投手」のことを“サウスポー”と言い、表記は southpaw (paw は口語で“人の手”) となりますが、なぜ“south” (南) が入っているのでしょうか。「左」と「南」がどのように結びついているのでしょうか。一説によると、シカゴなどの球場では投手は西向きに投げるようになっており (バッターが西日で見にくくならないため)、その場合左利きの投手が西に向いて投げると、左腕は「南」側になるということからだとか。なるほど、と思ってしまう。


さて、「右」についてですが、欧米の文化では基本的に「右優位」があるようです。なぜでしょうか、また「右」を表わす英語の right には「正しい」とか「権利」といった立派な意味もあるのはどういうことでしょうか。

あとの方から先に見てまいります。right には形容詞として「(道徳上・一般通念からみて)正しい」、「間違いのない、正確な」、「直角の」などに加え「右の」の意、名詞として「(道徳的に) 正しいこと」、「正道、公正」、「正しい行ない」などと「(法的・政治的な) 権利; 正当な要求」の意があります。まず、「正しい」という意味での right は古くは riht (古高ドイツ語 reht、古オランダ語 recht、ゴート語 raihts) でしたが、それはゲルマン祖語の rekhtaz にさかのぼることが出来るそうです。さらに、それはインド・ヨーロッパ祖語の語根 reg- につながるといい、その意味が“move in a straight line, to lead straight”で「まっすぐ」という意味にたどりつきます。古代ギリシア語の ορεκτος (orektos) は「伸ばされた／まっすぐ立った、直立した」の意、ラテン語の rectus は「まっすぐの／正しい」の意があることにも表わされています。これらから、「正しい」という意味は「まっすぐである」ということから生まれてきたことが分かります。次に、「右 (の)」という意味が right に与えられたのは、「右手」が「強い方の手」であることと関係があるようで、「右」は古英語ではもともと swiþra (stronger) だったといえます。また、インド・ヨーロッパ祖語の語根 deks(i)- は古代ギリシア語の δεξιος (dexios) (on the right hand)、ラテン語の dexter (on the right, favourable) に残っていますが、「右」と関係があります。「右の」を表わす古仏語の destre、リトアニア語の desinas、古いロシア語の десной (desnoj) はこれらにつながります。

「右の」－「正しい」－「権利／法」が結びつくのは英語だけでしょうか。ヨーロッパの言語では概ね同様のことが見られます。同じゲルマン系のドイツ語は順に recht - recht - Recht、ラテン系のフ

ランス語も droit – droit – droit、スラヴ系のロシア語もправый (pravyi) –правый (pravyi) – право (pravo) です。

ところで「右の」と「正しい」の結びつきには旧約以来の『聖書』の価値観も影響を与えたようです。『旧約聖書』では、「右(の)手」は①祝福(ヤコブが右手をヨセフの子エフライムの頭に置いて祝福する場面＝創世記 48:17-18他)、②力・喜び(海が分かれて追っ手のエジプト軍から逃れたことで神を称える＝出エジプト記 15:12他)、③正義・救い・助け・導き(詩篇 48:10他)などを示しています。また、『新約聖書』には復活・昇天後キリストは父なる神の「右の座」についていると書かれています(マルコ 16:19、コロサイ 3:1他)。有名な「しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」(マタイ 5:39)のように、右と左が同時に出るときは「右」が先に記されます。このように『聖書』では「右」は大切な意味も持っていると言えます。

これは文化の面にも影響を与えています。さまざまなことに意味付けを与えることが多い東方正教会の「右」へのこだわりを二、三見てみましょう。まずロシア正教の十字架です。イエスがゴルゴタの丘で十字架  につけられたとき、右側と左側に一人ずつ犯罪人も十字架につけられていました。そのひとりにはイエスに悪口を言ったのに対し、もう一方は彼をたしなめ、自分の罪を認めてイエスに「御国の位にお着きになるときは、わたしを思い出してください」と憐れみを乞いましたが、それに対しイエスは「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます」と答えた(ルカによる福音書)23章32-43節に書かれています。そのことを表わすため、十字架の下の方の横棒(足台)が向って左(イエスの右側)が上、右(イエスの左側)が下になるよう傾けられています。聖書には右、左どちらの犯罪人がこう言った、ああ言ったとは特定されていませんが、恐らくイエスの「右側の」犯罪人の方が憐れみを乞うてパラダイスを約束されたと考えたのでしょう。ちなみに上の横棒は処刑の際の罪状板を表わします。次に、正教国ロシアの家の部屋には「赤のコーナー」と呼ばれる角がありました。別にプロレスをするわけではありません。そのコーナーは棚にイコンが置かれており、大切なところとされていました。なぜ「赤の」コーナーかといいますと、かつてロシア語の「赤い」という語には「美しい/美しい」の意味があったからです(現在は別の語)。有名な赤の広場も“美しい広場”という意味なのです。それはそうとして、このコーナーは、東に向って「右側の角」とされています。さらに、正教徒は体の前で十字をきるとき、親指・人差し指・中指を合わせ(三位一体)、額から胸、そして右肩から左肩へもっていきます(右が先)。カトリック教徒は反対ですから、サッカーの試合などゴールを決めた選手が感謝のしるしに十字を切るときのしぐさを見ると、その人や国の宗教(宗派)がわかるというものです(例えばセルビアのストイコヴィッチさんなら右から左、ブラジルのロナウジーニョさんなら左から右です)。これらの例で「右」が優先されるのは、イエスが神の「右に」座しているということに拠っています。

風を用いて雷が電気であると明らかにしたことで知られるフランクリンのベンジャミン Benjamin という名について一言、この名は旧約聖書に登場するベニヤミンに由来しますが、ベン(子) + ヤミン(右手)で「(神の)右手の子」を意味します。ベニヤミンはヤコブの12人の子の末子ですが、フランスに Benjamine、イタリア Beniamino、スペイン Benjamín、ロシア Вениамин など世界中にさらに多くの“兄弟”がいることとなります。では、右手で次号まで bye-bye!

## 児童文学の旅(2)

— H. C. アンデルセン、デンマーク・フュン島オーデンセ —

原 昌

1974年、日本読書学会会長の滑川道夫氏が、ウィーン国際会議に、「文学と読書」部門での日本代表として加わらないかとの誘いがあった。そんなきっかけがあって、中欧への旅に出たのである。私にとっては初めての外国への旅であり、初めての国際学会への参加であった。それにウィーンを去って、デンマークのオーデンセを訪れたいという、ひそかな願いがあった。

八月の中旬、ウィーンはさわやかな季節であった。ゴシック風の建物の窓辺から花々がのぞき、街路樹は濃い緑だったが、もうマロニエの実はふくらみかけて、秋に急いでいるようだった。それに静かな街のたたずまいには、古い時間がしみこんでいた。ウィーンは美しい古都である。私には街をゆっくりと彷徨する余裕もなかったが、豪華なホーフブルク王殿での3日間の会議を終え、私はそそくさとデンマークに向かった。

そして翌朝には、コペンハーゲン駅から7:30発特急列車の車中の人になった。たしかオーデンセは海を隔てたフュン島にある。だが、この列車はオーデンセ行きという。デンマーク語のできない私に疑念が付きまとう。列車には‘Odense’という文字が見える。こんな疑念をかかえながらも、列車は音もなく発車した。車窓から草葺き屋根の農家や、風車のある田園風景が流れていった。1時間ばかりして海にでた。だが8両編成の列車はそのまま海に突込んでいく。どうやら列車はフェリーの船底に入ったようだ。私たちの列車の横には、どこからきたのか、すでに長い連結車両が止まっていた。乗客が降り始めたので、私もついて出たが、ふたたび戻るときに列車を間違えるのを恐れて、こっそり降車口の扉に赤い鉛筆で○印を記しておいた。

巨大なフェリーのデッキにでた。八月とはいえ、海風は肌寒く、濃い朝霧が立ちこめ、霧の合間に白鳥が群れていた。それにカモメが船に付きまとい、ときおり私の肩あたりまでやってきた。それはまさに霧の流れと鳥たちの織りなす幻想的な風景であった。北欧がいくつもの幻想的な文学を生んだのも、この風土なのかもしれない。

やがてフュン島港に着き、ふたたび列車にのりかえ、オーデンセに着いた。子どもの楽隊が私たちを迎えてくれた。道ばたの空き地のにぎやかに練習をしていたのである。老人に道を聞き、アンデルセン博物館にたどり着き、そこで「人魚姫」の自筆原稿・使用した机・旅行かばんなどの展示に接したが、彼のつくった切り紙細工・スケッチ画・押し花などもあり、その多才さに驚いた。

博物館の近くにアンデルセンが少年時代を過ごした家がある。長屋風の家には三つの部屋があり、その一つが靴職人の父と迷信深い母とともに住んでいた部屋であった。『自伝』のなかで、彼は「少年時のベッドはある伯爵の霊柩台であった」と記し、極貧を忍ばせた。部屋の入口に一冊の厚い訪問帳があり、私はサインをすませた。そのなかに日本人名を探したがなかなか見あたらず、私が日本からの三人目の訪問者であった。

この日にコペンハーゲンに戻る小さな旅であったが、博物館の建物の写真を見せた私に、小枝を拾い地面に図を書き、手真似でその場所を教えてくれた、素朴な老人のことが忘れられない。

その翌日、私はコペンハーゲン郊外の海辺に出て、埠頭近くの公園に行き、「人魚姫」の像を見た。海のなかの大きな石のうえに姫の像がポツンと建っている。うつむきかげんの座像である。その表情は憂いをおびているようだった。王子への恋に破れ投身自殺した姫の心情はルイーゼへの失恋に終わったアンデルセンの苦悶であったが、そんな心情が私に憂いを感じさせたのであろう。それにポツンと建った「人魚姫」像に、恋に破れ、愛に渴き、そのたびに旅にでたアンデルセンに、〈孤独〉を見たのである。

翌日、私はこんな思いをいだきながらコペンハーゲンに別れを告げ、帰国の途についた。

(中京大学名誉教授)

## 新着図書セレクト

\* 9～11月の新着図書の中から、お薦めの本をご紹介します \*



『あの戦争を伝えたい』（東京新聞社会部編・岩波書店）

請求記号：210.75/To 46, 所蔵：LSC

庶民や兵士の被害・加害の苛烈な体験、壮絶な事実と向き合うところから、「靖国」「日中」等すべての議論は始まらねばならないだろう。数々の生々しい証言を通して60余年前の戦争の実像に迫る。



『モナ・リザと数学：ダ・ヴィンチの芸術と科学』

(ビューレント・アートレイ著；高木隆司，佐柳信男訳・化学同人)

請求記号：702.37/A 94, 所蔵：TL

フィボナッチ数、黄金比、シンメトリー、透視法…あの名画にしかけられた美の法則が次々と明らかに。しかもそれは自然界の至るところに隠されていた。

レオナルド・ダ・ヴィンチの美の法則に迫る。

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
007.58/O 86	『おとなのためのグーグル超活用術』（インプレスジャパン） グーグルを使いこなせば日本はもちろん、地球上あらゆる情報は思いのまま。	LSC TL
021.2/To 21	『著作権に気をつけろ！：著作権トラブル110番：小説・論文・漫画・キャラクター・写真・映像・ホームページ』（富樫康明著・勉誠出版）	TL
029.9/Ko 53	『書物の宇宙誌：澁澤龍彦蔵書目録』（国書刊行会編集部編・国書刊行会）	LSC
080/C 44/620	『頭がよみがえる算数練習帳』（竹内薫著・筑摩書房）	LSC
130.4/A 64	『忘れてしまった哲学の名言：覚えたい、使いたい：ここだ！という時に使える』（荒木清著・中経出版）	TL
140/Sa 25	『目からウロコの心理学：「心のメカニズム」を解明する103の視点！』（齊藤勇著・PHP 研究所）	TL
141.5/Mo 65	『逆説思考：自分の「頭」をどう疑うか』（森下伸也著・光文社） 常識・決めつけ・思い込みを反転させれば、世界がスッキリ見えてくる。	TL
159/D 99	『「頭のいい人」はシンプルに生きる』（ウエイン・W. ダイアー著：渡部昇一訳・解説・三笠書房）	LSC TL
204/Ki 54	『世界で一番おもしろい世界史：つい、誰かに話さずにはいられない』（桐生操著・ベストセラーズ）	TL
210.26/Se 31	『汽車旅放浪記』（関川夏央著・新潮社） 文人たちに愛され、日本人の心に新しさと懐かしさを育んできた「鉄道」を旅する！	TL

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
210.5/Su 48	『うつくしく、やさしく、おろかなり：私の惚れた「江戸」』 (杉浦日向子著・筑摩書房)	LSC TL
327.67/G 14	『ガイドブック裁判員制度』(河津博史、池永知樹、鍛治伸明、宮村啓太著・法学書院) 裁判員制度のしくみをはじめ、どのように市民が刑事裁判に関与していくのかを迫真のシミュレーションとQ & Aも交えてやさしく解説。	LSC LL TL
336.4/J 56	『若者はなぜ3年で辞めるのか? : 年功序列が奪う日本の未来』 (城繁幸著・光文社)	LSC TL
336.49/Sh 12	『やってはいけない! 社会人としての100のタブー』 (社会人のマナー研究会編纂・彩図社)	TL
361.4/Sh 23	『問題な人』(渋谷昌三著・PHP 研究所) あなたの身の回りには「問題な人」との上手な付き合い方を心理学者が親切に解説します。	TL
440/N 32	『宇宙授業』(中川人司著・サンクチュアリ・パブリッシング)	LSC
493.7/Sh 49	『災害の心理：隣に待ち構えている災害とあなたはどうか付き合うか』 (清水将之著・創元社)	TL
502.1/Ta 91	『独創する日本の起業頭脳』(垂井康夫、武田郁夫編・集英社)	TL
585.7/O 17	『かみさま』(大平一枝著; 小林キユウ写真・ポプラ社) 名刺、葉書、便箋、包装紙、切手、おみくじ…etc. 人のそばに、ひっそりと居る紙きれの数々。	LSC
645.9/G 94	『ペットと生きる：ペットと人の心理学』 (B. ガンター著; 安藤孝敏、種市康太郎、金児恵訳・北大路書房)	LSC
694.6/Th 6	『Phone book：世界のケータイ』 (ヘンリエッタ・トンプソン著; 古谷真佐子訳・トランスワールドジャパン)	TL
699.8/H 92	『テレビ政治：国会報道からTV タックルまで』(星浩、逢坂巖著・朝日新聞社) 政治はテレビを利用するが、テレビもまた政治を利用する。	LSC TL
757.3/Ko 79	『日本の色』(コロナ・ブックス編集部編・平凡社)	LSC
796/H 11	『先を読む頭脳』(羽生善治、伊藤毅志、松原仁著・新潮社) 二人の科学者が実験とインタビューを重ねて羽生善治の思考、学習、戦略を克明に分析。	LSC
809.6/Y 19	『本物の会議』(山田豊、笠井洋著・日刊工業新聞社) こんな会議なら出てみたい! という究極の会議が本書のなかにある。	LSC
813.5/B 89	『文章表現のための類語類句辞典』(安田章編・三省堂)	NL
816.5/To 15	『卒論を書こう：テーマ探しからスタイルまで』(榎木伸明著・三修社)	TL
836/To 56	『英語らしい英文を書くためのスタイルブック』(富岡龍明著・研究社)	TL
910.26/Sa 21	『恋する文豪』(柴門ふみ著・角川書店) 妻や愛人や自分探しや病気やらでけっこう忙しかった文豪たち。	TL
911.12/Sa 32	『図説地図とあらすじで読む万葉集』(坂本勝監修・青春出版社)	LSC
914.6/Sa 66	『覚えていない』(佐野洋子著・マガジンハウス) 人生は忘却の中に埋れているのだ。	LSC TL

※所蔵の【NL】は名古屋図書館、【LSC】はライブラリー・サービス・センター  
【LL】は法学文献センター、【TL】は豊田図書館です。

## 図書の旅

文学部 言語表現学科2年 高木 慧

「砂漠」「塔」「風」「歯車」「少年」……。思い出せるのは、これらが登場する物語だったはず、ということだけだった。

半年ほど前、ふと、中学の頃に読んだ本のことを思い出した。思い出した途端、それを読んでいた当時の図書室や友達の様子が鮮明に浮かんできて、何だか懐かしくなった。久しぶりにその本を探して、ゆっくり読んでみたいと思い始めたのだった。

しかし、どれだけ頭をひねっても、そのタイトルが分からなかった。それどころか、上記の漠然としたイメージ以外は、本の詳しいストーリーも、作家名も、出版社もまったく思い出せない。外国人作家の小説であったはず、でも、それがどこの国の作家なのかもさっぱりだった。

インターネットに本屋、図書館と、思い付くかぎりの方法と場所で探したが、手がかりが少なすぎて何の成果も得られない。見つけたのが中学校の図書室だったこともふまえて、児童図書コーナーを巡る日々が続いているが、目的の本にはたどり着けていない。先は長そうだ。

本を探すために訪れた地元の図書館で、中学の図書室で読んでいくつかの懐かしい本たちと再会した。そのほとんどが、すっかり存在も忘れていたものばかりだった。膨大な書物であふれる図書館の、無数に並ぶ本棚の、さらにその中の一段から偶然見つけ出す、というのは、ずっと会うことのなかった昔の知り合いと、意外な場所で再会を果たしたようで、どこか不思議な感じがした。

でも、いくら見た目や内容が同じでも、借りた場所が違うのだから、この本は自分の読んだ本ではない。初対面の本なのだから、「再会」と言うのは変だ。だが、その本を見つけたのがもし本屋とかだったら、それは単なる「発見」で、「再会」と思ったりはしなかったはずだ。

図書館の本は、数え切れないほど多くの人によって外の世界へ持ち出される。様々な土地を巡り、その地の空気に触れる「旅」を経てから、元の図書館へ帰ってくる。本に残る傷やしみが、それをしっかり語ってくれるのだ。

そんな旅をしていない書店の本たちが、いくらその真っ白な装いを主張しても、「昔自分が覚えた興奮を、同じように持っていた人がいるんだ」と思えなければ「再会」なんて言い方はできないし、する気にならないのだと思う。

一方、本だけでなく、読者である自分たちもまた、本の世界を旅する。図書館にずらりと並ぶ無数の図書の一つ一つの、閉じられたページの中に、それだけの数の世界が確実に存在する。本を読むことで自分たちは、何気ない生活を送りつつも、それだけの物語の旅を重ね、多くの経験を積んでいけるわけだ。

そして、今も自分は、記憶から抜け落ちた謎の本を求めて、あちこちの図書館をまわる、小さな旅を繰り返す。本に触れることは、それだけの旅に触れること、色々な形の旅を続けることなのだと、今さらのように気付いた。これも、謎の本のおかげだと思う。

なんにしても、その謎の本はとにかくどうしても見つけたい。やはり、最初にその本を見つけた母校の中学に行ってみるしかないようだ。約五年ぶりに訪れる、あの小さな図書室で、果たして目的の本は見つけることができるのだろうか？

## 『地下鉄道』とその調べ方

～図書館員 Y のお薦め本紹介～

地下鉄道 (Underground Railroad) 一私が最初にこの言葉を知ったのは、図書「秘密の道をぬけて」(あすなろ書房、2004) を読んでのことでした。この本は対象が児童ということですが、当時のアメリカの時代状況や、幼い勇敢な少女が逃亡奴隷を守り抜くストーリーがよく描写されており、シンプルでありながら、胸を打つ内容になっています。この本のなかで、少女の両親が所属していた組織が地下鉄道です。この地下鉄道は物理的に地面の下に設置されていた鉄道ではなく、19世紀アメリカにおいて存在した、南から北への黒人奴隷の亡命を手助けした組織です。「自然発生的に、しかも黒人も白人も一緒に、市民たちが中心となってできた組織なんだ…」と感動し、俄然興味を持った私は地下鉄道がどんな組織なのか、どんな人が関わっていたのか、どんな資料があるのか調べ始めました。物事を調べるための第一段階は、背景・基本情報を調べるために、まず百科事典にあたることです。以下、定評の高い小学館の「日本大百科全書」地下鉄道の記述の抜粋です。

『アメリカ合衆国で、南部奴隷制地域から北部自由州やカナダへ黒人奴隷を救出した、奴隷制反対運動の秘密組織をいう。この組織内では、黒人と白人が協力し、奴隷の逃亡を誘導する人を「車掌」、かくまった場所を「駅」、次の駅への輸送情報は「ぶどうづる通信」とよばれた。地下組織のため正確な数は割り出せないが、「従業員」は3200人以上とされ、これにより「南部は10万人の奴隷を失った」という。』

また、索引の→の参照見出し項目にあった、タブマンの記述を見ると、このタブマンという人がいかに素晴らしい名車掌だったかということがわかりますが、全体的に少ない記述です。もっと調べようと、今度はどんな資料があるのか、本学図書館 OPAC で「地下鉄道」のキーワードで検索します。いくつかヒットしましたが、地下鉄の本ばかりで求めるものと違います。対象データベースを NACSIS 目録 (NACSIS Webcat: 全国の大学図書館が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベース) に変え、検索すると、たくさんヒットしましたが、またもや地下鉄の本ばかりです。唯一、日本大百科全書で参考文献に挙げられていた「自由への地下鉄道」(新日本出版社、1980) という本がありましたが、本学には所蔵していないので、相互貸借をするか、公共図書館で借りることになります。次に、日本大百科全書はもう見ましたが、念のため、本学図書館 HP の外部データベース、JapanKnowledge でも検索してみます。この JapanKnowledge は非常に便利な知識データベースで、キーワードを入力するだけでさまざまな百科事典から一括検索ができます。「地下鉄道」のキーワードで辞事典の検索をすると、先ほどの日本大百科全書 (小学館) でヒット。記述の内容は全く同じですが、このデータベースの良いところは、参考文献、書籍や信頼できる関連サイトへたどりつくことができるということです。他にも会社四季報や東洋文庫が閲覧できるなど、いろいろ見てみると面白いデータベースなので、ぜひご利用を。

他に調べ方として、新聞や雑誌記事索引の MAGAZINEPLUS や CiNii、EBSCOhost にあたること、WebcatPlus で連想検索することも必要でしょうし、キーワードも地下鉄道だけではなく、「奴隷解放」や「南北戦争」、「リンカーン」、「黒人の歴史」等の関連語やより大きな概念の単語で検索することが必要です。参考文献をイモヅル式にたどることも有効でしょう。また、フリー百科事典サイト「ウィキペディア (Wikipedia)」にも地下鉄道のことが詳しく記述されています。探索の過程においてスマートに作業が流れることはなく、行きつ戻りつ、いろいろな角度から資料にあたるが必要になります。一つの資料にあたり、そこからまた新たに幾つもの手がかりを得るという感じで、今回も調べていて、『アングル・トムの小屋』著者のストー夫人が地下鉄道に関わっていたということが分かりましたので、ストー夫人のことも調べよう、ということになります。

奴隷解放というと、私の頭に思い浮かぶのは、キング牧師と「公民権運動の母」と称えられるローザ・パークス女史の二人です。ちなみに、キング牧師のワシントン大行進のもようは、先ほど紹介した、JapanKnowledge のライブラリのところから映像記録が閲覧できます。昨年、ローザ・パークスが亡くなってから、一年が経ちます。平和の世紀構築のために、二人の信念、また地下鉄道に従事した、名も無き市民たちの勇気を受け継いでいくことが大事なのではないでしょうか。

## 図書館カレンダー

1

■ 豊田 ~17:00

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2

■ 平日 豊田 ~17:00  
■ 土曜 豊田 ~12:30

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3

■ 豊田 ~17:00

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

4

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

## 通常開館時間

	平日	土曜日
名古屋図書館	9:00 ~ 19:00	9:00 ~ 12:30
豊田図書館	9:00 ~ 20:00	9:00 ~ 17:00
ライブラリーサービスセンター	9:00 ~ 22:00	9:00 ~ 17:00
法学文献センター	9:00 ~ 19:00	9:00 ~ 12:30

無印は通常開館

■ は休館日

■ は名古屋図書館、ライブラリーサービスセンター、法学文献センター休館日

■ の開館時間（平日 9:00 ~ 16:00）

○ の開館時間（平日 9:00 ~ 17:00 土曜日 9:00 ~ 12:30）

## 臨時休館のお知らせ

1月20日(土)	豊田図書館は開館、名古屋キャンパスの3館は休館（センター試験）
2月1日(木)~3日(土)	”（入学試験）
2月8日(木)~9日(金)	”（入学試験）
3月7日(水)	”（入学試験）

## 発行 中京大学図書館

〒466-8666

名古屋市昭和区八事本町101-2

TEL(052)-835-7157

<http://www.chukyo-u.ac.jp/tosho/>

印刷 株式会社 荒川印刷